

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 24 年 6 月 14 日(火) 19:30～20:00
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7名 出席委員数 4名 欠席委員数 2名

出席委員の氏名

中村 修／深田 剛／別府 美加代／和田 美智子

欠席委員の氏名

泉 力／里井 大起／浜地 龍介

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／小野 健太郎／元井 庸介／

上野 紋／渡武 志／渡 陽子／沖元 眞実

4 議題

審議(語り継ぐことについて)

5 議事の概要

- (1) 審議(語り継ぐことについて)
- (2) 次回の審議議題について
- (3) 事務局よりのお知らせ

6 審議内容

(1) 泉委員、里井委員、浜地委員の欠席の報告がされた。

(2) 番組内容の審議(語り継ぐこと)

深田委員長

「語り継ぐこと」について審議を始めたいと思います。感想やアドバイスなど、いただければと思います。

「語り継ぐこと」は毎年、8月の終戦記念日を前に、島に住んでいる戦争を体験された先輩方に、戦争についての体験談を語っていただき、次世代に伝えていこうという趣旨で作られている番組です。

一放送局 元井

お配りした CD に入っていたものは昨年のものですが、8月15日の1時からと、その前日に放送しました。

その前の年までは、島の宝奄美っ子と、なきやわきや島自慢という、帯の番組があるのですが、そのなかで分割して放送していました。体験談をなきやわきや島自慢で、子ども達の声を島の宝奄美っ子の中で、それぞれ分けて放送という形で。ただ、去年は、2時間の特集という形での放送でした。

別府副委員長

CD で聞かせていただきましたが、結構リアルな声ですね。正直、途中で聞けなくなったぐらいです。被爆の状況などの話の刺激が強く、時間を空けてまた聞いたりもしました。後から収録をきいたということになると思いますが、実際の、会場の雰囲気などは、どうだったのかなと逆に気になりました。でもすごくいい企画だと思います。その後の感想なども、反映されているし。構成としては、語り手の方が、思いが強くてたくさん出てくると思うので、

それを上野さん(あまみエフエムパーソナリティー)がうまく整理して、分割して放送されていたので、聞く方としては聞きやすかったです。

中村委員

聞く側としては、中身が濃いなど。奥田さん(語り手の方)のことは、同じ大和村なので、普段から知っていますが、あれほどの体験をされていたというのは知らなかったもので、びっくりしました。

中身について、すごくよかったのですが、番組審議委員という立場からの意見を言わせていただくと、まずは「語り継ぐこと」というタイトルが素晴らしいなどと思いました。また、元ちとせさんの「語り継ぐこと」をテーマソングにしているのもいいなどと思います。

番組の枠の話ですが、結構長いので、(番組審議委員は)CD だから途中止めて聞けたのだけど、普通にラジオで聞いている人は、一連の全てを聞いた人は、なかなか少なかったのではないのでしょうか。もったいないのですが、その辺りをどうフォローしていくのが難しいと思います。ナキャワキャ島自慢なら、毎回毎回、前回のあらすじを聞いて本編ということで、単発でも聞けるのだけど、今回のように 2 回だけでまとまっていたら、途中からきいた人は、わけがわからないのではないのでしょうか。最初から、この企画を知っていて準備をして聞く人ならまだしも、車を運転しながら聞く人などは、車を降りたり載ったりしながらで聞きっぱなしは出来ないだろうし、こういった特番は、難しいなどと思いました。

また、上野さんの語り口も柔らかくて、いいなどと思いました。今回のように、重厚なテーマのときには、シマグチのアクセントではなく、標準語で、落ち着いた語り口で整理しながら話す感じが、耳になじむなどと思いました。

深田委員長

時間の長さ的なことで、全てを通して聞くことについてはどうでしょうか。

中村委員

時間を通して聞いたとしたら厳しいと思います。時間も、準備しないとイケないし。

和田委員

大体、思っていることが(すでに意見として)出てきましたが、時代的な背景として、今はもう昭和の後半から平成にかけて生まれ育った子供たちがどんどん出てくる中で、後輩たちに何を残していこうかということが、私たちや年配の人たちの大きな役割ではないかと、つくづく感じています。その中で、語り継ぐというのは、まさしく意を得た題材で、取り組んでいращやるのはすごくよかったなどと思います。やはり、こういうことを子どもたちに聞いてもらう場がほしいなどと思いました。大人は広島・長崎などで話を聞いたりして、情報としていろいろあるのだけれど、こういうことをどうやって子供たちに伝えていくかということは、今後の大きな課題で、修学旅行で沖縄や長崎に行ったりという経験を、子ども達もしているけど、島の人達が、自分達が体験した生の声というのは、また違った風を受取るのではないかと思うので、何かの機会に伝えるようにしてもらえるといいなどと思います。

時間帯ということですが、私も、炊事をしながら、洗濯物をたたみながらラジオを聴くので、その中で動いたりするものですから、途切れ途切れになってしまうので、車運転する時間帯だけ集中して聞いたりとか、(配られたサンプル CD の)一枚目と二枚目の、長い時間の番組を、どういう風につないでいくかという、構想を考える必要があるかなと思いました。

深田委員長

CD が 2 枚になっていたのので、時間配分が気になったこともありますね。

あまみエフエムに質問ですが、今回、話してくれる人を探すのは大変だったと思うのですが、スムーズにお話をさせていただける方を見つけられたのですか。

一放送局 元井

「奄美の原発乙女」という本と、あとは、前年に出ていただいたナカムラテルオさんが、被爆された方々の会の代表だったので、その方々を中心にお願ひして、探しました。

今年も、今また探しているので、近くに住んでいらして、お話ししてくださる方がいらっしゃったら紹介をしてほしいと思います。昨年も、宇検村の屋鈍に被爆した方で、昔、相撲で奄美の横綱になったというすごい方がいらっしゃったのですが、(こちらが)行けば話しをしていただけるのですが、イベントの当日、図書館でお話をしてほしいとなると、遠いからと、断られたということもありました。

深田委員長

今回の話の内容を聞けば、「身の上を明かす」ではないけれど、先ほど中村委員からもあったように、知っている人でも体験談を初めて聞いた、というようなエピソードのように、なかなか話してくれる人が見つからないのではということがあったので質問させていただきました。

次に、今日欠席の濱地委員から、メールで意見が提出されていますのでご紹介させていただきます。

濱地委員

いつも楽しくラジオを聞いています。

今週は出張が入ってしまい番組審議会に出席出来なく申し訳ございません。少しでも皆様のお役にたてればとこのメールを送らせて頂きます。

今回の資料として頂いた番組 CD は、とても身近に感じた話でした。

自分は前職が旅行代理店で勤めていました。そこで、添乗員として中学校の修学旅行に添乗しました。中学校の修学旅行は長崎へ行きます。そこで被爆者 体験講話の話を聞きました。そこで、奄美は原爆とは関係なくはないことを知りました。自分の亡き祖父も被爆者手帳を持っていたとのことでした。こういった話は、普段はじっくり聞くことはありませんが、この CD を改めて聞くことで感慨深いものになりました。こういった話は、学校教育に役にたつと思います

ディさんに関しては、直近の大雨のときも迅速な番組変更などで大雨情報を伝えてくれありがとうございます。これからもディさんのサポーターとして応援していきますので頑張ってください。

深田委員長

番組の内容について、題材については非常に難しいと思いますし、制作側からしても大変でなかったのかなという思いを、言葉尻や、表現の仕方などで感じました。内容が内容ただだけに、元ちとせさんの音楽が入るとするのは中和といいますか、そういう感じがしていいと思いました。悲しい内容ではありますが、音楽を入れることによってテンポを保っているといった感じがしました。途中から聞いた人にも、上野さんが、ナレーションでこういう番組ですという話をしていたので、途中から入っても、全体は難しいかもしれませんが、「こういう番組だ」ということがわかると思いました。

驚いたことが 2 点ありました。1 点は、被災地に居たときのことをずっと話せなかった方がいたということ。昭和

50年代後半まで、自分がその場所において被爆したことを言えなかったことです。そのようなエピソードを聞いたときに、こういった機会がなければ知りえなかったことで、番組の意義を感じました。また、もう1点は、被爆の手帳をもらうときに、その被爆の証明を取ることが難しく、大変苦勞された話で、それもやっぱり、番組がなければ知らなかったことだなと感じました。

また、気になったことが1点、証明を取るために、居ない方を証明者として・・・というエピソードがあったのですが、それは、一生懸命話をしてくれしてくれた人のために、そのエピソードを伏せることができなかつたのかなと、それがもしも誰かに伝わって行って、ご迷惑がかからないかなと気になりました。島に帰ってから、あの当時あの場所と一緒に働いていた人を探すのはもちろん不可能に近いことだと思うのですが、プライバシーを守るためにうまく何かできなかつたのかなと思いました。

とにかく内容が非常に難しいと思うので、制作の方々は苦勞して作つたのだろうなというのを聞きながら感じました。「語り継ぐこと」という題名ですので、「語り継ぐ」ようになる番組になってほしいなと思いました。

あまみエフエムのスタッフからの質問はありませんか？

一放送局 元井

この次期に番組審議会で聞いていただこうと思ったのは、今年も、8月にまた開催を考えているので、その参考にさせていただきたかつたからなのですが。時間について、去年初めて続けて放送したのですが、イベント会場で集まって聞くのにはいいのですが、ラジオから流れるとしたら、長いなと感じたので、今年はまだ少し分割して放送できる形を取れたらなと思っています。ナキャワキャ島自慢と島の宝奄美っ子に分けてしまうと、2週間ずっと朝昼に戦争の体験談を放送することになるので、それはそれで空気感が難しいなと思うので。

深田委員長

この、終戦記念日と前夜というタイミングが、戦争のことを考えるための期間としていいですね。

一放送局 元井

それから、子ども達にきいてもらいたくて(この企画を)始めたのですが、今は小学生の親の世代も、(戦争を)体験していない世代になってきているので、一緒に参加してもらって、そのことについて家などで話してほしいと思っているのですが、学校への周知などが去年まで難しく。こちらも段取りがよくわかつていなかったというものもあるのですが。今年、社会科の先生方の集まっている会に顔をだしてお願いしようかなどと思っています。

和田委員

夏休みに入るときに子ども達への配り物があるので、チラシみたいなものを先生方にお渡ししたりすると、家庭に配られて、親子でこういった企画がいついつあるというのを気持ちに留めておけるので、来てくれることになるかもしれません。学校関係を利用したり、先生たちの部会があるならそこに発信したらいいのではないのでしょうか。子ども達の配り物は、父兄の方々も目を通すので、先生たちを通すと、皆周知できそうな感じがします。

一放送局 元井

一つ聞きたいことがあるのですが、去年思つたことなのですが、岩元イホエさん(語り手の方)の歌も、ご本人は立って歩けないので、当日は行けないからということで、お家におじゃまして収録して、会場でも流しました。屋鈍の方も、現場に来れないということで話を録音させていただきました。イベントとして開催して、実際に見ても

らう、島の先輩、ご本人がそこにいて、聞くということを優先するのか、それよりもっとラジオの放送を優先して、企画すれば、もっといろいろな方の体験談を収録できるかなと思ったのですが。

深田委員長

来られない方もお話して下さるとするのは非常な貴重なことですので、音でとるというのもありだと思うのですが、音プラス映像という撮り方をして、会場で画面で話をする、そして来ていただいた方にもお話していただく、という風にすれば、関係者やご親戚の方もきてくれると思うし、あと映像として残すというのも意味があると思います。そういう風にしておけば、学校に教材として提供できたりもすると思います。

別府副委員長

イベントとして開催する意味については、現場で実際の声を聞いたり、そして考えたりする時間が必要ではないかと思えますし、自分もそうですが、なかなか時間の無い大人はイベントにいけないと思うので、そういう人はラジオから流れる放送を聴いて、感じたり、考えなければいけない、と思うこともあると思います。ラジオってそういうきっかけを作ってくれるものだと思うので、どっちもあつたほうがいいと思います。

一放送局 元井

一昨年までは、ナキャワキャ島自慢で体験談を話してもらって、島の宝奄美っ子では子供達の感想を作文として読んでもらう感じで、今回は最後に、参加してもらった人達の声を収録して放送するという形を取ったのですが、理想は、意見交換というか、子どもが質問をして、それに先輩達が答えるといったシチュエーションを構想してみたいなと思っています。

深田委員長

音だけで聞くとすると、大人の方がずっと話すよりも、子供の声も間に入って質問があつたりというほうが、耳を傾けやすいというものがありますね。やり取りがあつたほうがいいと思います。

子供がどういう質問をするのか興味がありますね。子供の雰囲気柔らかくなっていいと思います。どうしても硬い雰囲気になってしまうので。最後、後半でそういう風になればいいなと思います。

和田委員

私も、聞いていて一番引っかけたのは、深田さんがおっしゃったみたいに、被爆者手帳を手に入れるのにどうしても2名の証明が必要だということで、どういう風にして証明をもらったというお話を、放送していいのかな、とひっかけを思いました。現実として、「証明するのが難しかった」ということの証明かなとも思ったのですが、いろいろな情報があるなかで、いろいろな捉え方をする方がいるので、注意をしながらした方がいいのかなと思いました。

深田委員

悪い意味ではなく、せつかくその方が苦勞されたお話をしてくださっているので、守りたいという意味合いで、できればいいなと思いました。話としては非常に貴重な体験談だと思います。島に戻ってきて過去の人を探すというのは、不可能に近いことですから。法的な制約もあると思うのですが、会社の証明と、行政の証明などで証明ができればそれがいいなと思うのですが。これは生放送ではなかったのですよね？

一放送局 元井

収録での放送なので、編集で消せたと今思うのですが。

和田委員

年数が経ってから後の証明ということになってくるので、沖縄でも、今まで戦争で体験したことを言えなかったり、全部自分の中に閉じ込めていたけれども、最後は語り継いでいかねばならないということを考えて、徐々に口を開いてきた、ということテレビで見たり、また特に原爆というのは、結婚して子供が生まれて、その子供にどう影響を与えるか考えたら、「自分は被爆者だよ」と公にできないという苦しみとか、また、子ども達がどうなっていくかというのを考えながら生活して、実際に生まれた赤ちゃんを見に行かれたということおっしゃっていましたが。そういう時代の中のことを、特に東北の大震災の被爆ということと絡めあわせながら聞きました。被爆というものが、あるいは戦争というものが、今になって声をだして話せるということ。そういうことをぜひ、他にもそういうものがあると思うので、ぜひ掘り起こして行って語り継いでいてもらいたいと思いました。

(3) 次回の審議議題について

「利文ワッジのユムタぬイジュンゴ」

放送日時(本放送): 毎週月曜日 13:30～

(再放送): 毎週月曜日 19:30～ 及び 毎週木曜日 16:00～

内容は、「島ユムタ伝える会」メンバーでもある城利文氏が、島ユムタの表現・単語の意味や由来を独自の視点で解説するというもので、子どもの頃の思い出話、城利文作品集からの楽曲も交えた15分番組です。

一放送局 上野より

今年の4月23日に始まったばかりの、まだ2ヶ月弱の番組です。もともと番組スタートのきっかけというのは、「島口NEWS シマゆむ TIME」という日曜日の番組に出演いただいている、島ユムタ伝える会のメンバーの方で、住用の川内集落のご出身、城さんが、川内ユムタ、島ユムタを残していかなければならない、残された時間の中でできることをしたいということで、結構前の段階からいろいろご自身で考えてらして、企画書というか、やり取りの台本のようなものも手書きで書いてらっしゃったりしていました。それを渡していただいたりして、この春から番組が始まりました。

ただ、言葉を解説したいという意味は、例えばこういう単語があるときに、こういう感じに当てはめると意味がわかる、「ヨネヤウガミンショウラン」の「ヨネ」はどこからきているのか、といった具合です。独自の解釈も多々あるのですが、学術的にこれまで言われていることと違うところからボールが飛んできたりとかもするので、正しいのはこれです、という出し方ではなくて、城さんがご自信で考えて解釈する中で、「こう考えました」、というのを出そうということで、タイトルに「利文ワッジの」と付けていまして、15分番組です。

毎回一つ一つの単語を出して、いろいろなシチュエーションを組み立てたりして、掛け合いなど作って行って、間に曲を一曲挟んで、後半は、背景など、そう思うに至ったわけ、子供のころの思い出などをうかがう形にしています。

今回(お渡しするCDには)は4本分入っています。初回と、聞いた民話をお話になっている4回、また、最近の回から子供のころの思い出話、お兄さんたちとけんかしたりというような思い出が入っている7回、8回が入っています。

いろいろある中で、ぜひご意見いただきたい点については、私は片言というか、子供の頃に名瀬でイントネー

ション程度しかシマグチに触れていなかった私と、川内ユムタ全開でいらっしゃる利文ウジの話を聞いたときに、言っている内容がわかるのか、また私とのバランスがどうなのか、そういったところを伺いたいと思っています。こっちのほうが正しいからそうなのではないの？などのご意見も、忌憚無く聞かせていただきたいと思います。

(4)事務局よりお知らせ

- ・今年も「語り継ぐこと」を開催する予定であること、ご協力、ご出席をいただきたいことについて
- ・放送局長 麓憲吾からのあまみエフエム開局 5 周年を迎えてのあいさつ

次回の番組審議会が8月9日木曜日、19:30 からに決定し、閉会する。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 24 年 7 月 4 日(水曜日)17:30～「ゆびいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成 24 年 7 月 4 日(水曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 24 年 7 月 4 日(水曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし